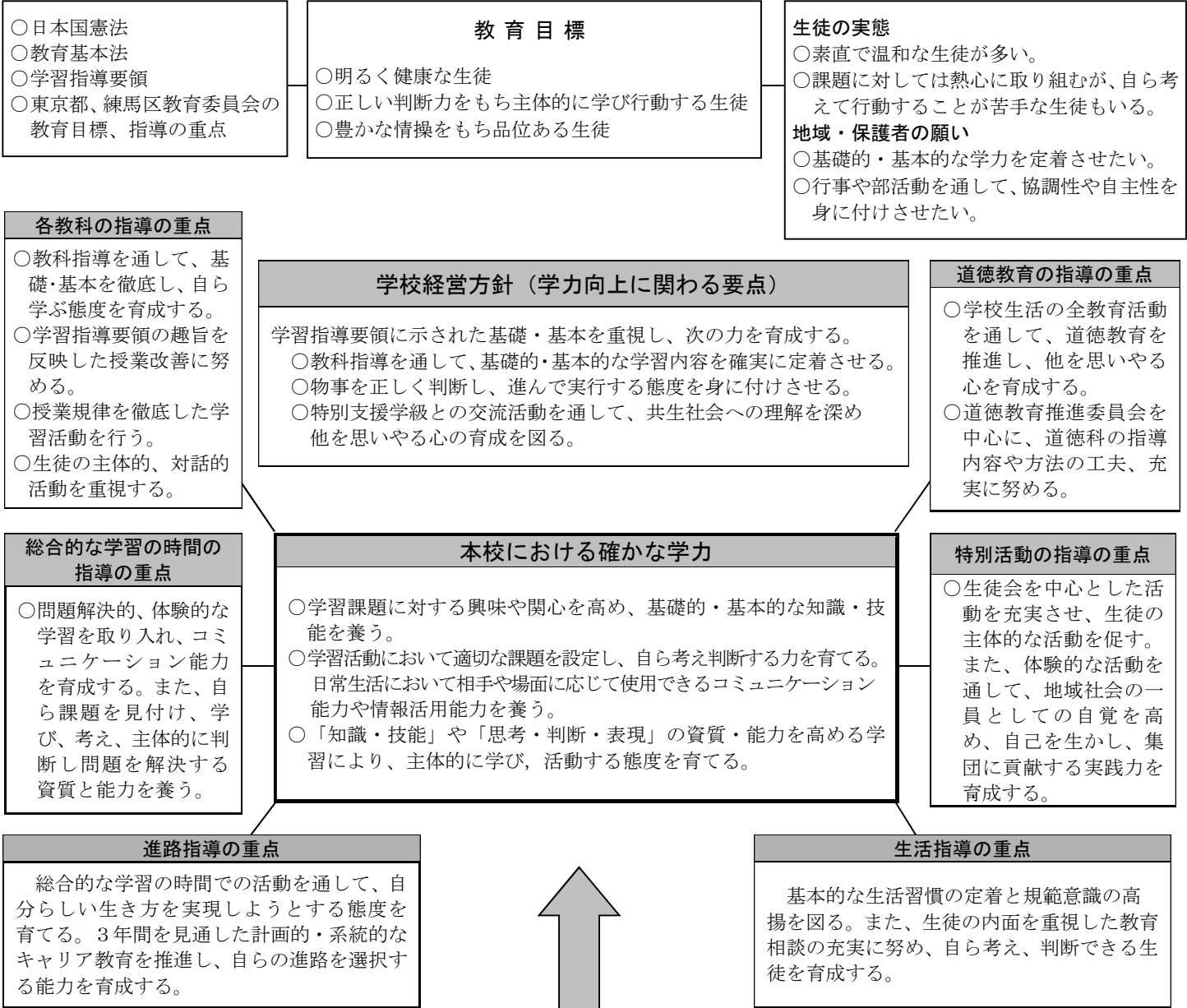


令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画



授業改善に向けた具体的な取組

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
①ICT機器の効果的な活用により理解を深め、個人の学習進度に合わせたタブレットの活用により、基礎学力の定着を図る。 ②区学力向上支援講師や学校生活支援員の活用を含め、個に応じたきめ細かな指導を行う。	①全校体制で言語活動の充実に取り組み、朝の読書活動を推進する。 ②学校行事と授業のバランスが取れるように時間割を編成する。 ③カリキュラムマネジメントの視点から道徳や食育の計画を編成している。	①互いに授業力を高め合う研究授業、分かりやすい授業を実現させる教材や指導法に関する校内研修を計画的に実施して、授業力の向上を図る。 ②1学期の授業の様子を基に、夏季休業中に授業改善推進プランを作成し、9月からの授業に反映させる。	①より信頼度の高い評価・評定にするための検証・点検作業を学期末ごとに実施する。 ②適正な評価・評定の在り方について研修を行い、より精度の高い評価・評定とする。 ③評価資料や評価基準などの根拠を明らかにし、説明責任を果たす。	①キャリア教育では、調べ学習や講演で多様な考え方に接し、広い視点から自分の進路を考え、自分らしい生き方を実現しようとする態度を育てる。 ②職業調べ、職場訪問、職場体験等の体験活動を充実させ、発表させる機会を設ける。	①小学校体験授業では、授業や部活動の体験を通して、小学生が中学校の生活をよりイメージできるようにする。 ②実践校としてテーマを決め年に2回、小学校と中学校で情報交換や取組の検証、課題の共有の場を設ける。